

平成30年度岐阜県大会

生徒講評文

8月	4日	3校目	岐阜農林 高等学校
檮		(既成・ 創作)	
<p>この作品のテーマは「何かの為に皆でつなぐことの大切さ」であろう。</p> <p>あまねとはるねは時には対立しあったり、時には互いのことを思いあったりする。そんな二人の絆を皆でつないでいくというストーリーは魅力的であった。駅伝で大根を使うのは戦時中の配給で満たされない人達の為に大根を持って走るといったルーツからきていて、大根という檮が過去と現在をつないでいると感じた。その村の人達の想い、あまねとはるねのために走ろうとする人達、その二人がお互いを思い合う、そういった人の優しさを感じた。</p> <p>この劇は一人一人の役者の演技力によって成立するものであった。声量や動き方が一人一人個性を持ち、言葉がその役者の心から発している気持ちとなっていた。会話のテンポも大変よく、舞台に引き込まれた。走る演技では、キャラクターごとの個性がでており、途中向きを変え、見せ方を変えていくという工夫や走っている途中転ぶ演技では、後方に下がるという工夫が素晴らしかった。バックする車を運転する役者の演技にもこだわりを感じた。</p> <p>演出では、照明や音響の細かい工夫が施され、劇を引き立てていた。舞台美術では、「いぬばしり」を様々な方法で活用できていた。場転の際は、役者が歌を歌い、黒子も場面に合った衣装を着用しており、照明はつけたままの状態でも魅せる場転をすることにより、開演から終演までお客さんを飽きさせない演出になっていた。「風が吹いている」の歌詞はこの劇のストーリーによくあっていた。</p> <p>最後、ゴールテープをきったのは、どちらなのか。または同時なのか。この劇は最初から最後まで観客を魅了し、考えさせられる内容であった。</p> <p>岐阜農林高校の皆さん、お疲れさまでした。</p>			
大垣西高校		栗田一輝 浅井取綾乃 小川唯	

